みどりの会 会員の皆様へ

江戸城跡 散策ツアーのご案内

拝啓　初秋の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、定例の散策ツアーですが、今年は皇居周辺の史跡を巡るコースにいたしました。江戸城跡では当時を偲ぶさまざまな名所・史跡があり、また公園も素晴らしいところです。その周辺の名所である坂にも寄りたいと思いますが、無理のない散策ツアーを予定しております。

ぜひご参加いただけますようご案内申し上げます。

敬具

**江戸城跡 散策ツアー コース行程**

①杏奈駅発→　②大手門　→　③同心番所・大手三の問跡　→　④百人番所　→　⑤富士見櫓　→　⑥松の大廊下跡　→　⑦天守台　→　⑧石室　→　⑨二の丸庭園　→　⑩北の丸公園　→　⑪田安門　→　⑫九段坂　→　⑬杏奈駅着

**江戸城跡 散策ツアー コース見どころ**

**大手門**

大手町駅方面から皇居東御苑への出入口です。江戸時代は、江戸城に登城する大名や役人たちの正門でした。大手門の高麗門をくぐると、枡形と呼ばれる広場になっています。この枡形は、敵が城内にまっすぐに侵入するのを防ぐとともに、攻撃の際には兵の集合場所にもなる施設で、周囲の白壁には「狭間」という銃を撃つための穴があります。

**百人番所**

大手門から大手三の門を抜けた左手にあるのが、長さ50メートルを超える百人番所です。大手門から江戸城本丸へ入る時の最大の検問所で、徳川家と縁故のある甲賀組、根来組、伊賀組、廿五騎組の、４組が交代で警備に当たっていました。

**富士見櫓**

中雀門を入って左手の本丸南端に位置する三重の櫓です。櫓の高さは約16メートルあります。どこからみても同じような形に見えることから「八方正面の櫓」とも呼ばれています。1657（明暦３）年の大火で天守閣が焼失したあとは、その代わりとされたと伝えられる重要な建物です。

**松の大廊下跡**

「忠臣蔵」で有名な元禄14年（1701）３月14日、赤穂藩主の浅野匠頭長矩が高家衆筆頭の吉良上野介義央に斬りかかる刃傷事件が起きた場所で、現在は碑が残るのみです。この事件の発端となった松の廊下は本丸で二番目に長い廊下といわれ、西へ約19メートル、北へ約31メートル、幅は約５メートルであったと伝えられています。

**天守台**

皇居東御苑と北の丸公園を結ぶ北桔橋門の近くにあります。寛永の天守は1657（明暦３）年の火災で焼け落ち、翌年に高さ18ｍの花崗岩でできた天守台が築かれます。これが現在残る天守台ですが、四代将軍綱吉の叔父である保科正之の「戦国の世の象徴である天守閣は時代遅れであり、城下の復興を優先すべきである」との提言により、以後天守閣は再建されることはありませんでした。

**石室**

富士見多聞北側の蓮池濠沿いにある石作りの蔵です。江戸城の遺構の中では比較的小さなもので、表の石組には焼けたような痕があり、多少ずれています。入り口には扉を取り付けた穴があり、内部は20平方メートルほどの広さとなっています。

**北の丸公園**

戦前は近衛師団司令部などがあったところですが、昭和天皇の還暦を記念して整備され、昭和44年に一般公開されました。もともとは旧近衛師団などの建物が立っていましたが、森林公園として整備され、1969（昭和44）に一般に開放されました。

**田安門**

1636（寛永13）年に建てられたと考えられ、昭和38年には解体修理が行われました。北面する高麗門とその西側に直交する渡櫓門からなる枡形門です。高麗門の扉の釣金具に製作に携わったと考えられる職人の名文があります。名前の由来は、門内には田安台といって、はじめ百姓地で田安大明神があったので門名に称としたといわれています。江戸城造営後は北丸と称し、代官屋敷や大奥に仕えた女性の隠遁所となりました。有名な千姫や春日局、家康の側室で水戸頼房の准母英勝院の屋敷などもこの内にありました。